

キューピット便り

二〇一八年九月号

訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭
☎42-2941

故母山口ミヨ儀七月二十六日九十七歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(浦屋久島葬祭斎場さくらにて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 山口 隆彦
長女 下 笠 香南子
二男 山口 信樹
外親 一族一同

故長男山之内陸儀八月五日四歳の生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋久島葬祭斎場楽養送別館にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 山之内 靖
母 山之内 愛
外親 一族一同

故妻福元康子儀八月五日七十六歳の生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋久島葬祭 やすらぎの家)くりおの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 福元 聖
長男 福元 真一
二男 福元 孝二
三男 福元 竜三
外親 一族一同

故夫牧清廣儀八月八日六十九歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(浦屋久島葬祭 やすらぎの家)ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 牧 美智
長女 脇岡 あかり
長男 脇岡 隆之
長男 牧 裕子
二女 牧 まなみ
三女 牧 泉
外親 一族一同

故父中島繁安儀八月十二日九十五歳の生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋久島葬祭斎場さくらにて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 中島 健一郎
長男 中島 のぞみ
長女 中島 美智子
長女 岩田 文雄
二女 岩田 正文
三女 若松 美保
三女 若松 伸一
外親 一族一同

故夫大川吉春儀八月十七日九十三歳の生涯をとじました。

なお、葬儀は(浦屋久島葬祭 やすらぎの家)ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 大川 シケ
長男 大川 勝哉
長男 大川 淳子
二男 大川 孝広
長女 大川 初代
長女 大川 高政
長女 大川 日高
外親 一族一同

故夫川東正博儀八月二十三日七十一歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(浦屋久島葬祭斎場ブルマーージュ)にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 川東 綾美
長男 川東 祐介
長男 川東 浩子
二男 川東 梨紗
二男 川東 洋介
三男 川東 由介
義妹 川東 美津代
外親 一族一同

八月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。

ギフトショップ オズ

リニューアルの為 **本日~17日まで** **大売出し!**

店内在庫品、大処分致します!

最大9割引より

ギフト商品・雑貨・アクセサリ・バッグ・文具などすべての商品が大幅値下げ!

9月17日**敬老の日**まで無料で包装いたします。

9月18日より店内改装の為、ご来店のお客様にはご迷惑をおかけ致しますが、ご了承ください。

お問い合わせ ギフトショップ オズ ☎42-2600

尾之間斎場アムール屋久島よりお知らせ

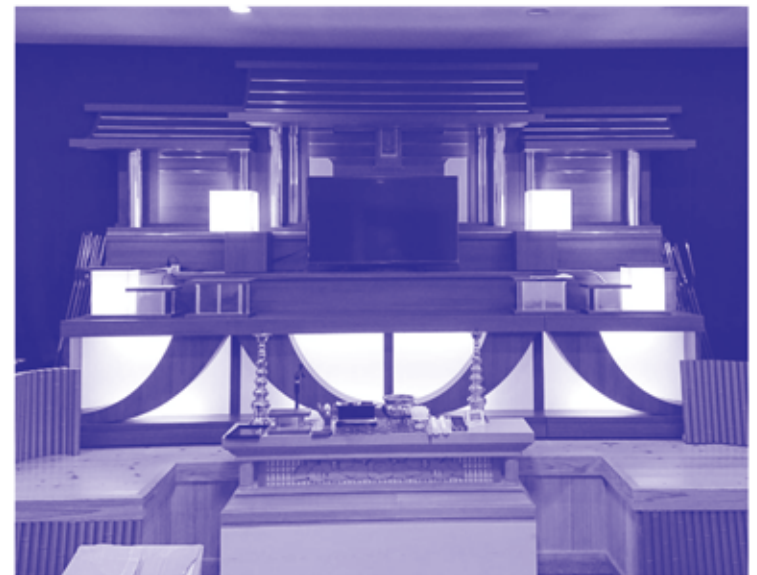
今回、ご要望によりまして葬儀・祭壇セットを増やしました。(もっとご利用しやすい価格設定)

・5万(税別)コース (和室2部屋での葬儀)

・22万(税別)コース
(ホールでの葬儀)



・30万(税別)コース
(ホールでの葬儀)



別途、公共費は必要となります。
(電気水道、消耗品費、宿泊施設費用として)

つやがひや

人生の中で資産として代表なのが土地。土地は評価額が決まっていて、所有しているだけで毎年しっかりと税金の請求がやってくる。先祖代々から引き継いだ土地もあれば、夢を叶えるために購入した土地もあり、いろんな状況で引き継がれている現状。土地によっては名義人が亡くなつており、名義変更するにもたたくさんの身内から承諾を得ないと変えられない土地が屋久島だけでなく全国で大きな問題になっている。政治と同じ「ややこしい事は先送り」そしていつかは子供、孫たちに大きな負担となるのだ。土地一つ一つには、所有者のいろんな想いがつまっている。そんな大切な土地だからこそ、他人が入ることも嫌う方もいらつしやるよね。境界線にしても、家屋調査士立ち会いの場合でも、隣接地の所有者と揉めて理解してもらえない時もある。ほんと土地は財産だから……

さて、私自身、斎場つくるにもまず土地探しから始まる。亡くなった方の最後の願い「住み慣れた集落からみんなに見送られながら旅立ちたい」そんな願いを叶えてあげたい、その想いで今まで進めてきた。私がひきつりながら、土地の所有者宅を伺うと、まずどなたも「何、どうしたの」

そこで「突然すみません。〇〇の土地を譲っていただけませんか」と事情を説明するが、すぐに了承してくださるはずもなく、日を改める。数日後、所有者から「集落のためになるのなら……」と承諾をもらえることもある。

そんな時、思う。この数日間、所有者はいろいろ考え悩まれただろうな。先祖代々からの大切な土地や自分が生まれ育った家を手放していいのだろうか。弊社に売って、近所の人たちに何か言われるのではないだろうか。返事を待つ私以上に悩まれた上での言葉。

「集落のためになるのなら……」その言葉につまった思いが嬉しくて熱くなり、改めてこの気持ちをしっかりと受け止め、一輪の花を咲かせなければいけないと思う。実際、私の心に伝わってくるのは、世間の嫌な言葉でへばりそうになることばかり。でも、このように私の気持ちを理解してもらえた時、ほんとに嬉しいのです。

良い人達に出会い、支えてもらっていると、幸せな気持ちと責任でいっぱいになる。島内にある斎場、これからも葬儀、法事だけでなく、いろんな集まり、会合など、利用してもらえると嬉しいのです。今回、このように人の心の温もりを感じさせてくれた方々、ほんとありがとうございます。